



PTA 母親委員 おすすめの本紹介！

さくねんど しんがた かんせんしやう えいきやう ねんいじやうつづ よ き
昨年度から、新型コロナウイルス感染症の影響で、20年以上続いている PTA読み聞かせができて
いません。代わりに何かできないかな…ということで、母親委員さんを中心とした PTA の皆さん
に「中学生におすすめの本」を紹介していただきました！60名以上の方にご協力いただきました。
とじょかん とお なんかい わ しやうかい たの
図書館だよりを通して、何回かに分けて紹介していきますので楽しみに！

しよえい しやうかいしや なまえ さくじよ
※HP では、書影と紹介者の名前は削除しています。



『昔話法廷』NHKE テレ「昔話法廷」制作班 (金の星社)

この本では、だれもが知っている 昔話の登場人物たちが、現代の法で裁かれます。
しーずん だいしやう さんびき すえ ひこくにん
season1の第1章では「三匹のこぶた」の末のこぶたが被告人となり、オオカミを
ころ 殺してしまったのは「殺人罪」が「正当防衛で無罪」なのかが争われます。裁判員の
ひとり、女子大生・千明の目線で進んでいくストーリーは、裁判について詳しくなくて

よ も読みやすいですよ。ただ、最後の判決は書かれていないので少々モヤモヤが残りますが、自分の
かんが 考えをじっくりとまとめてみるのもいいですね。ぜひ読んでみて下さい。



『冒険者たち』斎藤敦夫 (岩波書店)

この本に出会ったのは、私が中学生の時に、ストーリーに一気に引き込まれて、
ごはんを食うのも忘れてしまうくらいでした。町のネズミ「ガンバ」が友だちの
「マンパク」と海を見に旅に出て、そこで港のネズミたちのパーティに参加します。

そこへ夢見が島から命からがらやってきた全身傷だらけの「忠太」というネズミが、
しま なかま 島の仲間たちをイタチの「ノロイ」たちから助けて欲しいと訴えます。力もちの「ヨイショ」、頭の良い
「ガクシャ」、足の速い「イダテン」、その他、一芸に秀でたネズミたちが自分たちの特技を武器に、巨大
てき た む なみだ さくひん
な敵に立ち向かいます。ハラハラして涙して、とてもおもしろい作品です。



『どうぶつのおかあさん』小森厚 (福音館書店)

こ どもが6ヵ月～1歳頃、当時住んでいた県の事業の「ブックスタート」でいただ
えほん いた絵本です。1977年に発行された本ですが、その当時ならではの動物の手描きの
え 絵で、さまざまな動物が子どもをだっこしているところが描かれています。本の手あか、
よご 汚れの分、何度も何度も一緒に読みながら動物のおかあさん、あかちゃんのマネをし

ていたことを覚えていておほ



『夢をかなえるゾウ』水野敬也 (ミズノオフィス)

「夢をもっているけど、実現できそうにない…」そんな思いをもっている人に、ぜひ一度読んでもらいたい本です。シリーズ1~4まであります。自分を変えたい人へ、笑いながら夢の叶え方を学べますよ！



『モンテクリスト伯』アレクサンドル・デュマ (岩波書店)

私が中学時代に読んでおもしろかった本です。長編ですが、夢中で読み終わりました。



『怪人二十面相』江戸川乱歩 (ポプラ社)

推理小説でとてもハマり込んで読んだ本です。江戸川乱歩作のものは、読んでいてドキドキワクワクさせられます。推理、探偵物が好きな方はぜひ読んでみてください！



『君の臍臓を食べたい』住野よる (双葉社)

最後が意外だったけど、とても感動して泣ける話です。毎日健康で元気であたり前の毎日に感謝して、自分を大切に強く、毎日を過ごしたいと思えます。



『僕は上手にしゃべれない』椎野直弥 (ポプラ社)

葛藤と成長の、胸打つ青春物語です。吃音の悩みを抱え中学生になった主人公が、思い切って入部した放送部にいたのは同じクラスの女子で…。読んで良かったと思える1冊だと思います。



『エコノミストの父が子どもたちにこれだけは教えておきたい大切なお金の話』

ながはまとしひろ 永濱利廣(ワニ・プラス)

社会に出てお給料をもらいます。数々の税金が引かれています。手取りが少なくなって思うかもしれませんが、消費税のことなど、大人になって生活し始めるまでに知っていてほしいことがたくさん書いてありますヨ。



『嫌われる勇気』岸見一郎 (ダイヤモンド社)

全ての悩みの原因は対人関係である。その悩みの解決方法は嫌われる勇気である。「世界がどうであるかではなく、あなたがどうであるか」小さな事で悩むのもったいないと思えるのではないのでしょうか。

本の紹介と共に、本についての思い出や中学生への想いをたくさん書いていただき、ありがとうございました。裏にも続きます…

